

## はじめに

平城京羅城門跡は佐保川にかかる来世橋の改修にあたって、礎石等数個が発見されて以来、発掘によるその究明が期待されていました。たまたま川の東側の奈良市側で次第に開発が進行してきたので、奈良市教育委員会の手で昭和44年夏、来世橋東側付近の発掘調査が実施されました。不幸にして川の氾濫による攪乱がはなはだしく、成果をあげるに至らなかったのですが、その結果、羅城門の究明が川の西岸の郡山市域の側に期待されることになりました。かくして郡山側の識者の要望もあり、上記の期待にそって、郡山市でも計画が進められ、国庫の補助を受け、昭和45年3月から4月にかけて、大和郡山市教育委員会の主催の下に奈良国立文化財研究所の協力を得て、第二次の発掘調査を実施しました。幸い、遺跡の残りがよく、朱雀大路の西側及び、九条大路の北側の溝や築地跡などが発見され、門跡の位置にも迫ったのですが、たまたまその場所が、金魚池の下になっていて、発掘の運びに至らず、やむなく他日を期することとなりました。

その後ようやく期が熟して、土地所有者の承諾も得て、今年2月から3月にかけて、第三次の発掘調査を実施しました。調査は郡山市教育委員会と奈良国立文化財研究所が協力して行なわれました。かくして、佐保川堤防の際で羅城門基壇の西端を明らかにすることができ、門の正確な位置と規模が推定可能となったのであります。

今後、大和郡山市としましては、調査の補足を行なうと共に、門跡一帯の地域の保存を計画しなければならない段階になりますが、とりあえず、第一・二・三次の発掘の成果をまとめて公刊し、この方面に関心を持たれる方々の御要望に答えると共に、大方の御批判を得たいと思います。

本書の刊行にあたり、終始協力をいただいた奈良国立文化財研究所の方々の御苦勞と心よく土地の使用を許された土地所有者の方々に深甚の謝意を表します。

1972年3月

大和郡山市教育委員会